



設立年月……1996年7月7日
 法人化した年月……2008年4月
 メンバー数……151人
 代表者名……平原 洋和(ひらばる・おきかず)
 889-1801都城市山之口町富吉2985-26 徳永貢
 電話 0986-57-5228 FAX 0986-57-5228
 メールアドレス info@donguri1000nen.jp
 ホームページ <http://www.donguri1000nen.jp/>
 facebookページ
<https://www.facebook.com/donguri1000nen.jp>
 <団体のミッション>
 わたしたちは、未来を生きる私たちの子孫に、豊かな自然環境を残すと同時に、自然と共に生きるという地域理念を定着させることを目的として、大淀川流域に自然植生である照葉樹の森を再生する活動を行っています。

「井戸」を掘り、 どんぐり村での活動を拡大しよう

……………特定非営利活動法人 どんぐり1000年の森をつくる会



団体設立経緯

どんぐり1000年の森をつくる会は、一人の民俗芸能研究家の「私はね、子どもたちにドングリの種をまかせ、芽が出るところを見せたい。生命の誕生に感動した子どもたちは、自然を大事にする心を持ち、将来大きな力になると思う」というつぶやきをきっかけに誕生しました。

平成6年、この話を聞いた数人が「それじゃ私たちがまってみましょう」と、種をまきました。そして出てきたドングリのみずみずしい双葉に感動し、畑に1本1本移植して育て始め、2年もすると背丈1mの苗が三千本も育ったのです。

平成8年7月7日、大淀川サミット会場で会員募集すると、市民の間でも環境への関心が高まっていたこともあり

60名余りが集まり、正式に会の発足となりました。

どんぐり1000年の森づくりは、1000年かけて大淀川流域の自然風土を再生する壮大なプロジェクトです。「ドングリの実を拾い、種をまき、苗を育て、山に植える」ことを地道に続けています。植えた後の管理基金として考えたのが「どんぐり株主」制度。一株500円の株券を発行し、市民に協力頂いています。これが市民の共感を呼び、20年間で12万7千株を発行し、60haの山に15万本のドングリを植えました。最初に植えた山は10mを超えるまで成長し、目標とする照葉樹の森があちこちに育っています。

地域概要

都城市は宮崎県の南西端に位置し鹿児島県に接しており、鹿児島市と宮崎市の中間にある都市です。平成18年1月1日、1市4町が合併し、新都城市が誕生しました。人口は16.7万人を超え、南九州では鹿児島市、宮崎市に次いで3番目、面積は653.31平方キロメートルで県内2番目の拠点都市です。

市域中央をほぼ南北に大淀川が流れ、宮崎平野にて日向灘に注いでいます。大淀川は鹿児島、熊本、宮崎の3県にまたがり流域面積は九州第2位です。流域の8割を占める山地は針葉樹がほとんどを占めていますが、木材輸入の全面自由化以降、林業の採算性悪化が続き、間伐など適切な管理が行われないものも多く、大雨による土砂崩れなどの風水害や病害虫に弱い山林を形成しています。また伐採跡地が植林されず放置されているものもあります。

そのような中で、綾町には日本最大の照葉樹林が残っています。潜在自然植生である照葉樹林は陸上の多様な生態系をつくり、私たち人間が生きていくための基盤となるものです。私たちは未来を生きる子孫のために「今できること 私たちにできること そして未来につながること」として、毎年ひとり1本のドングリを植え続けることが大事だと考えます。



活動に至った理由や背景

どんぐり村こども自然塾の整備



「百見は一体験に如かず」と言います。どんぐり1000年の森をつくる会はドングリの種をまくという体験から生まれました。ですから20年間の活動のすべてが体験を基本として成り立っています。ドングリの実を拾い、種をまき、苗を育て、そして山に植える。植えたら下草を払い、森に育てる。この一連の作業の中で、成功や失敗を繰り返しながら植物の生態や森の多様性を学んできました。

このようにずっと体験の大さを感じてきましたので、子どもたちが日常的にのびのび遊べる森をつくりたいと考えていました。たまたま一人の会員が住む地域に、会がめざす照葉樹(イチイガシ)の群生があったことから、地主に趣旨を説明したところ、森の利用について快諾を得たのです。

そして誕生したのが「どんぐり村こども自然塾」です。森で遊ぶ子どもは創造性豊かな子どもに育ちます。森の中には何一つ同じものがないから、五感をフルに使って遊びます。物事を理解する前に自然を体感することで、自ら抱く興味や疑問が自然に創造性や感性を養っていくのです。私たちは、子どもたちの日常的な森の遊び体験が森づくりへの理解者を増やし、活動継続のための後継者育成にも繋がると考えているのです。



活動の内容と成果

これまでの整備や活動の経緯

整備を始めたのが平成20年、杉林を切って、近くの小学生とクヌギやニレ、コナラ、ヤマザクラ等を植え「クワガタの森」として育林を始めました。8年を経過した今では、樹高が7~8mになり、夏にはクワガタやカブトムシがたくさん生まれ、子どもたちの昆虫採集が盛んです。

その後竹林を少しづつ切り開き、22年には拠点施設である「どんぐりの森図書館」を建設しました。この材料購入には都城ライオンズクラブを始め企業、団体、会員、市民など多くの支援を頂き、建設はすべて会員の手づくりで行いました。図書もほとんどが寄付によるもので、今では幼児・児童対象の絵本や森林環境に関する本が揃ってきました。

24年には緑の募金事業交付金(間伐材利用)により、トイレや遊具の整備を行いました。今では冒険の森には「ツリーハウス」「レンジャーロープ」「竹林アスレチック」「ターザンブランコ」「ハイジブランコ」など、子どもの冒險心をくすぐる遊具がいっぱいです。天気の良い休日には多くの家族連れが訪れ、子どもたちのにぎやかな声が森に響き渡っています。そのほか平日・休日を問わず保育園、学童保育、小学校、ボイスカウト、ガールスカウトなどの利用も増えています。また夏休み・冬休みには会主催の環境教室を実施しており、植物採集や昆虫採集、ネイチャーゲーム、夏休み工作、火おこし体験、ロープ木登り体験などに多くの家族が参加しています。



井戸掘削

どんぐり村子ども自然塾の立地場所は集落と500mくらい離れているので、電気も水道もありません。もともとスイッチ一つで電気がつき、コックをひねれば水が出ることは望んでいませんでした。不便さを体験することでモノを大切にすることを学んでほしいからです。

これまで水は図書館の屋根の雨樋を利用して5000タンクに溜めて利用していました。しかし常に水があるとは限らず、利用者が増えるにつれ、遊びで汚れた子どもが顔や手を洗うにも水が不足することがありました。

今回助成をもらってまず着手したのが、掘削ツールをレンタルして人力で井戸を掘ることです。8月1日、子どもたちも含め総勢20人くらい集まりました。オーガーと言われる先端金具をロッドでつなぎ、回転させて掘っては上げて、オーガーの土を出してまた掘る。この作業を繰り返して掘り下げて行きました。深くなるにつれてオーガーを上げるのが大変になり、8mの深さで滑車の綱を引く人、ロッドを持ちあげる人総勢6~7人が全力で上げ



でも厳しくなりました。この時点で、井戸の水位が1.6mあったことから、井戸として機能すると判断し、掘削を終了しました。

ところが後日、井戸をきれいにするために、動力ポンプで汲んでみたところ水位が0.7mしか回復しませんでした。これでは井戸としては機能しないため、2回目の掘削を実施しました。9月5日、12人が集合。一回目の反省から、ユニック車を借りてオーガーを引き上げたため作業が楽になりました。途中トラブルはありましたが結果として11.0mまで掘削でき、先端が帶水層であるシラス層に何とか到達したことから、内径100mmのパイプを設置し作業を終えました。

その後、何日もかけて井戸内の堆砂除去、清掃を行い、10月10日手押しポンプ(深井戸用)を設置し井戸を完成させました。現在は細粒状の砂が混じっているため、まだ飲用水としては利用できませんが、子どもたちの手洗いや水遊び、清掃水、トイレ洗浄水などに利用しており、十分に目的を達成できています。

井戸の手押しポンプ設置に付随して、水遊び場、ポンプシャワー、ビオトープ池を整備しました。誰かが水を汲んでいると、子どもたちが集まり、どろだんごを作ったり、流れてくる水で川をつくり、そこにある竹や板切れで橋、ダム、水路トンネルなどをつくってしまいます。夏に向けて子どもたちがどんな創造をするのかが楽しみです。

どんぐりの森図書館新装開店

大きな木立に囲まれ、2階部分の広いデッキを持つどんぐりの森図書館は、春は新緑、夏は緑陰、秋は黄葉、冬は陽だまりと四季折々の心地よい空間を提供してくれます。子どもたちは図書館やデッキ、時には3階の小屋裏で絵本を読んだり、読んでもらったりしています。デッキはお昼ごはんや工作、そしてお昼寝の場にもなります。

しかし建設から5年を超え、汚れが目立ち、耐久性も問題となっていたことから、外壁とデッキの塗装を行いました。11月に高圧洗浄機による屋根及び外壁の清掃、12月に2回の塗装を完了しました。デッキについては4月に会員十数名の参加により、デッキブラシ洗いと塗装を行い、きれいになりました。



そして今回は助成により、子どもたちにとってさらに大きな魅力が加わりました。広いデッキからつり橋で渡る「ひみつきち(ツリーハウス)」と、デッキからさらに上に登る「おひるねヤグラ」の整備です。ひみつきちは小学生以下の子どもだけの聖域空間です。揺れるつり橋を恐る恐る一人ずつ渡っていきます。そしてこどもサイズの小さい家と高いデッキで遊びますが、知らない子どもでもまるで元から友だちだったかのように一緒に遊んでいます。

おひるねヤグラは竹の上り棒を登らなければ行くことができません。何回も挑戦して登れる子もいますし、その日に登ることができない子もいます。このように子どもの挑戦を育むことがこども自然塾のひとつのねらいです。

掲示板と看板の設置

どんぐり村こども自然塾の利用が増えるにつれ、掲示板の必要性が増してきており、今回整備しました。会の色々な行事の案内はもちろん、利用者の意見を聞く双方のコミュニケーションを図ることを考えました。行事案内の提示スペースを中心に資料箱やアンケート用紙投函箱を設置しました。また施設看板が老朽化したため新しく設置しました。地域の書家に書いてもらいましたので、躍動感ある素晴らしい看板ができました。



その他の施設の整備

助成事業期間に二つのいいことがありました。都城市から台風倒木をたくさんもらったことと、近くの水道工事の残土をもらったことです。この二つが助成事業と相まって、どんぐり村こども自然塾の整備に大きな効果をもたらしました。

台風倒木は「ひみつき」や「ワイルドすべり台」「自然木アスレチック」の材料として、工事残土は「築山」整備や敷地内整地に利用することができました。

また塗装の足場に使った単管は、「薪小屋」と「ロープ網アスレチック」に再利用しました。



どんぐり村こども自然塾で実施した行事・作業

- 6月13日——井戸掘りワークショップ
- 7月25~26日——環境教室(植物採集、縄文火起し、太陽光で湯沸かし、クワガタ採り)
- 8月1日——第1回井戸掘り
- 9月5日——第2回井戸掘り
- 10月10日——ポンプ設置
- 11月20日——築山盛土と整地作業
- 11月20日——図書館屋根・壁の洗浄作業
- 12月——図書館塗装作業
- 12月13日——冬の工作教室(ミニ門松づくり)
- 12月28日——掲示板制作
- 1月中旬~3月——ひみつき基地整備作業
- 4月16日——ひみつき基地完成
- 4月30日——ターザンロープ踏切台更新
- 1月30日——ワイルドすべり台土台設置
- 2月21日——築山完成
- 2月14日——ワイルドすべり台完成
- 2月27日——看板完成(どんぐり村こども自然塾)
- 3月12~13日——水遊び場の整備
- 3月16日——ポンプシャワー設置
- 4月16~20日——4月おひるねヤグラ整備
- 4月29日——図書館デッキ洗浄＆塗装
- 4月29日——ビオトープ池＆流末水路整備
- 4月29日——薪小屋整備(単管再利用)
- 4月29日——幼児用シーソー2基製作
- 5月7日——ロープ網アスレチック製作

今後の予定

助成による魅力向上によって、5月の連休は連日80~100人の家族連れが遊びました。整備前に比べ来村者は増加しています。自然の心地よい空間において、緑・土・水や小さな動植物に触れ、自然遊具で思う存分遊ぶことで、家族の語らい、子どもたちの遊びの共有、知らない人同士の情報交換など様々な交流が自然に増えています。

どんぐり村こども自然塾に多くの人たちが来て、四季折々の自然を体感することは、自然の大切さを理解してもらえることにつながります。また会本来の活動である1000年かけて風土を築くための照葉の森づくりの展開も広がると確信しています。今後も子どもたちが様々な自然体験ができる環境や仕組みをコツコツとつくりていきます。

